

日本倶楽部案内

—心豊かに都心で過ごす、第二の人生の拠点が此処にある—

会員委員長 妹尾正毅

私が退官後最も多くの時間を過ごしているのが日本倶楽部である。

明治時代に端を発する伝統ある格式高い会員制クラブだが、私が長時間をそこで過ごしているのはそれだけが理由ではない。

そこが心豊かに第二の人生を過ごすのに最適な都心の拠点と思われるからであり、多分多くの同様な立場の諸兄、更には諸姉妹にとっても同じことが云えるのではないかと思っている。

ではそれは何故か。以下にそれを述べ、皆様のご参考に供したい。

1. 場所

第一、場所が良い。都心日比谷の最も便利な場所、お堀沿い日比谷通りに接し、皇居外苑を一望するビルの8階、地下で地下鉄三田線日比谷駅、有楽町線有楽町駅の双方と直結し、この他日比谷線、千代田線の日比谷駅、更には、丸ノ内線・銀座線銀座駅にも直行出来る。雨の日、暑い日、寒い日等、待ち合わせ等に利用するにも、便利この上ない場所である。

2. 施設、活動

第二に、施設、活動が充実している。アンケート結果等からみて、最も好評なのは講演会である。毎月原則3回、昼過ぎ、2時までの時間に大会議室で行う講演会は常にほぼ満員、テーマも時事問題、国際問題から歴史、文化、趣味、哲学、科学技術等、世間の関心を惹き得る、およそ考えられる総ての分野に及び、講演要旨はその都度倶楽部会報にも掲載されている。

率直に言って、これほど充実した講演会を行っている会員制倶楽部は他にはないのではないかと云う気がする。日本倶楽部の会員は総じて元気に見えるが、一つには、こう云う講演会が、我々が高齢化と共に時代遅れになるのを、防いで呉れているのかもしれない。

3. 図書室

第三の理由は、充実した図書室と終日そこに居て良いような雰囲気であろう。

図書室は色々な処に在るが、当倶楽部の伝記その他の幅広い蔵書群等も印象的である。

その上、その場所も気楽に心を休めて、ゆっくりと時間を過ごすにも最適である。机や椅子の配置もゆったりとしていて、雰囲気も明るい。窓から外を眺めれば最高の景観が目に入るし、いつの間にかお茶を出されたりしている。その点、日本倶楽部のような処は殆どないのではと思う。

4. 同好会、会員作品展、各種見学会等

更に、囲碁、書道、小唄、ゴルフ、その他の同好会に入れば、一層、入って良かったと思うよう

になる。そのため毎日のように倶楽部通いをするようになるかもしれないが。

更に書、絵画、工芸等、その才能と研修・研鑽の結果を展示する作品展が毎年有るのも嬉しい。外が良ければ様々な見学会等にも事欠かないし、新しい提案をすることも出来る筈である。

5. 会員間の交流

第五の理由は、会員間の交流の場としての利点、乃至その可能性である。

これは正直に言って、どの倶楽部が一番とか云う事の出来ない点ではないかと思うが、日本倶楽部は歴史的には明治の閣僚間の組織として始まり、中央官庁の幹部出身者中心の倶楽部として今日に至っているため、出身官庁毎のタテ社会的交流中心に成り易い。

だが、今や当倶楽部は女性会員を認め、民間出身者等にも大きく門戸を開き、より幅広い会員間の交流の場として、もっと会員に役立ちたいと願っている。

新年賀詞交歓会、午餐会等も好評であり、志を等しくする人達にもっと入って欲しいと思う。家族も必要に応じ招いて良いので、家族サービスの観点からも悪くないアイデアだと思う。

6. 連絡、紹介

関心のある方には、いつでも館内の案内、説明、相談等に応じる用意がある。

親しい会員が居ない方でも差別されることはないので遠慮なく事務局に連絡して欲しい。

なお月会費 9 千円は高いと思われる方もあるかもしれないが、週 1, 2 度行くだけのスポーツクラブの会費並み、年会費も一寸したゴルフの会に、3, 4 回行く程度の支出ではないか。

それだけの年会費で日曜、祭日を除く毎日、即ち年間計 300 日以上に亘り、東京一と云って良い景観を眺めつつ、この施設を一日中フルに活用し、自分の過ごしたいように過ごせると云うのは何たる幸運、幸せなこと、と考えるべきではないかと思っている。

日本倶楽部入会案内

住所 100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1

電話 03-3211-2511 Fax03-3211-2515

インターネット marunouchi.1@nihonclub.jp

会長 石原信雄

副会長 中田一男、持永堯民

入会手続 会員2名の推薦による（入会申込書提出、用紙は在事務局）

入会金 30 万円、

月会費 9,000 円

役員、施設、活動事項等、案内文書はインターネットで閲覧、事務局で入手可能。